

研究室では、グリーンランド、南極等における氷床のボーリング・コア中の同位体や化学成分の分析で、気候復元の研究に多くの成果をあげている。放射に関しては、Davosの物理・気象観測所のDr. Fröhlichが太陽常数の研究を行っている。1981年～82年に行われた、アルプス上空の大気観測(ALPEX)では、これらの研究室は、協同で観測を行った。1986年に出た、スイス気候・大気調査委員会の「気候変動、一スイス気候学研究計画の基本」と題するレポートには、1987年からの10年計画として、大気モニタリング、気候復元研究の計画などが提出され、23の研究機関が名を連ねている。ETHの地理学研究室もその中にあり、グローバルな放射及びエネルギーバランスの研究と、チューリヒの都市気候の観測とモデリングなどを受け持つ予定である。

最後に、今までの一年半を振り返り、学生生活について少し触れたい。スイスの学生は、素直でおとなしく、自由な雰囲気を持っている。初対面でも屈託なく話し合いますが、親しくなるのは時間がかかるようである。相手の特性を理解して初めて、親しくなるようで、つきあいはそれほどオープンでない。私の場合、一年近くたって、

急に多くの友人が出来たような気がする。日本の研究室では、学生間の縦や横の連がりが高く、大学院生活のかなり重要な部分を占めているが、こちらではあっさりしている。雑然とした学生集団の中で育ってきた私には、これは少々、物足りない感じがする。

外国では、刺激の多い、変化のある生活や勉強を行える一方、諸事、手間のかかることが多く、無駄も多い。変化と無駄のため、時間が過ぎていくのも速い。それで、それなりの対応の仕方が必要になる。例えば、長期の留学生活では、海外プロジェクトの様に、予定した活動を計画通り効率良く進め、成果を得るといったパターンより、むしろ、出発前に予想していなかった事に出会い、その中から学ぶことが多い。多くの価値や楽しみもある。これを収束させ、形を作る努力が、その後続く。

スイスに来て見たこと、考えたことを雑然と書いてしまったが、この小文が、海外での勉強を計画している皆さんや、今、各国に散らばっている友人たちの目にも届けば幸いです。

昭和62年度 日本生命財団研究助成の募集のお知らせ

人間活動と環境保全との調和に関する研究

——自然と人間の共生への新しい道を求めて——

助成の主旨

日本生命財団は、過去8年間にわたり環境分野の研究助成を行っており、本年度も標記の課題で公募を行います。

21世紀の豊かで調和のとれた環境づくりに貢献する独創的な研究、学際的な研究等ユニークな着想にもとづく研究計画をお持ちの研究者・グループのご応募を期待します。

研究助成の概要

- 応募資格は問いませんが、意欲的に研究を遂行していただける個人・グループ
- 選考方法：当財団選考委員会で厳正な選考のうえ、9月の理事会にて決定

- 助成期間：昭和62年10月から1年間

- 助成金総額：8,000万円程度(予定)

応募方法

- 「応募要項」「申請書」は下記あて郵送用切手同封の上、ご請求下さい。

なお、「応募要項」「申請書」は5月中旬までにご請求下さい。

(1部～2部 240円, 3部～4部 350円, 5部～9部 700円)

- 「申請書」の提出期限：昭和62年5月30日(土)消印まで

〒541 大阪市東区今橋3-11-1 日本生命今橋ビル
日本生命財団 研究助成部 電話 (06) 204-4012